

BIPROGY研究会 中部支部
会員各位

BIPROGY研究会 中部支部

2024年度 研究活動 【中部支部】参加者募集のご案内

拝啓 日頃よりBIPROGY研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚く御礼申し上げます。
BIPROGY研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題等を研究テーマとし、テーマに関する知見を取得するのみに留まらず、課題を克服すべく仮説を立て検証し、研究活動成果を報告書として取り纏め発表していただく研究活動を行っています。

ビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、異業種交流の場という目的としてご利用ください。活動を通じて自社へ活動成果をしっかりと持ち帰っていただけるように、研究グループ毎に BIPROGY グループ社員によるアドバイザー制度や運営メンバー、事務局によるフォローをしっかりと行っていききたいと思います。

企業の枠を超えた異業種交流による人脈形成、視野の拡大、人材育成の場としてぜひご利用いただきたく、下記要領にて活動へのお申し込みをお待ち申し上げます。

敬具

1. 研究活動の目的

- ・ 異業種交流（社外の年齢や経験、役職の枠を超えたメンバーとの交流）
- ・ 人材育成（課題解決、仮説検証、チームビルディング、プロジェクトマネジメント、ファシリテーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション、コミュニケーション能力向上）
- ・ 業務外分野探求への挑戦（失敗を恐れずチャレンジできるプロジェクト）
- ・ 働き方改革による新しい活動形態への挑戦
- ・ 活動成果の社外への発信（発表会や Web 掲載を通して参加者・参加会社の知名度アップ）

2. 研究内容

巻末にある 研究活動における「キーワード」一覧をご覧ください。
お申込み時に興味のある分野、研究したい分野をお聞きます。

3. 参加資格

BIPROGY研究会会員企業（会員企業の方であればどなたもご参加いただけます）
リーダー・担当者クラスの方々を広く募集します。

4. 申し込み方法

下記サイトからお申し込みをお願いします↓

<https://form.biprogy.com/public/seminar/view/31367>

→ **2024年5月17日（金）までにお申し込みください**

5. 参加費用

- ①本年度研究活動費として1企業あたり ¥20,000を申し受けます。
 - * 参加人数に係わらず、1企業あたり ¥20,000
 - * 参加メンバー確定後、「連絡責任者」へご請求させていただきます。
尚、請求書送付先が連絡責任者と異なる場合は申し込みの際に連絡欄にご記入願います。
- ②会合活動のための交通費、通信費等経費は参加者負担とさせていただきます。
- ③後述記載の合宿研修（8月開催）については、別途参加費を申し受けます。

6. 研究活動の運営について

- ①活動グループは1チーム5名～7名程度とさせていただきます。
グループ構成はお申し込み状況やご興味のあるキーワードにより判断させていただきます。
 - * 異業種交流の観点からも同じテーマに同じ会員企業様が多くならない様に調整もさせていただきますのでご理解の程お願いいたします。
- ②主体はご参加いただく皆様です。
基本的にはグループに参加された方の自主活動で、日中の業務時間内での説明会や会合が予定されることもございますので、その旨ご了承願います。
また、BIPROGYグループもアドバイザーとして皆様の活動を支援いたします。

7. 活動期間と会合回数

- ①本年5月より3月末まで（発表会を除く）研究活動でグループにより差がありますが、日中の通常業務時間内でグループ単位にて調整いただく会合として、月2回程度の会合を見込みます。
ご自身の業務に支障をきたす活動は本来の活動の形ではありませんので、ご参加いただいた皆様も限られた時間の中で効率よく活動を行っていただきますよう、予めご理解いただきご参加いただきますようお願いいたします。
- ②中部支部で成立したグループの第1回目の会合については、発足を兼ねて**5月29日（水）15:00～17:30**に行いますのでご予約ください。
詳細は参加申し込みをいただいた方に別途E-mailなどご案内いたします。
また、年間の主な活動スケジュールにつきましては巻末に掲載していますのでご確認ください。

8. お問い合わせ先

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-3-3朝日会館
BIPROGY（株）内 BIPROGY研究会 中部支部事務局（担当：近江・辻）
TEL：050-3132-2689 / E-mail：biprogy-ken-chubu@biprogy.com

8. その他

ご報告いただいた研究活動成果（研究活動活動報告書やプレゼン資料、その他各種資料を含む）の著作権は著作者に帰属するものとします。但し、著作権はBIPROGY研究会が情報発信する機関誌やWebサイトにおいて、著作者の研究活動活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含む）をBIPROGY研究会に無償で許諾するものとします。

《主な活動スケジュール（状況により変更、中止になる場合があります）》

5月29日（水） 全体発足会 および 第1回会合（オンライン/リアル開催）

事務局からチーム編成、今後の計画などについて説明いたします。
その後、チーム毎でメンバー内で自己紹介・今後の進め方・次回会合日程決めなどを話し合ってください。

8月9日（金）～10日（土）研究活動合宿研修 静岡県伊東市にて開催

BIPROGY(株)の施設「伊豆エグゼクティブセンター」にて2日間の集中合宿を行います。本合宿の最後にはそこまでの研究活動の状況をプレ発表する場を設けており、他のグループと意見交換を行います。

9月6日（金）～7日（土）全国：サマースクール 静岡県三島市にて開催予定 （リーダー・サブリーダー対象）

研究テーマに対する知識や技術を具体的な課題を解決する為に、仮説を立て今後のアプローチ・方向性をグループ内でしっかり議論し、中間報告いただきます。
（詳細は別途リーダー・サブリーダー確定後ご案内いたします。）

11月下旬 中部支部内 報告書 進捗説明会

報告書の内容の精度を上げるために、第三者(出来れば研究活動経験者)などに説明して、矛盾など指摘いただきます。重要な場です。

1月末 研究活動報告書 提出期限

提出された後、研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力のもとより、汎用性・有効性・独創性・独自性などを考慮して査読審査をさせていただきます。最後に報告書の評価点がつけられます。3月に行う発表会の評価点とあわせて入賞チームが決まります。

2月央 中部支部内 研究活動プレ発表会

全国研究活動の発表会に向けて、中部支部内で独自の発表会を行います。発表会には他グループとか参加された方から、感想意見をいただきますので、それを受けて発表方法・発表資料の質向上を図ればと思います。

2月末 研究活動発表資料 提出期限

3月7日（金）全国：グループ研究活動 発表会 東京都有明にて開催予定

中部で行った発表の経験を生かし発表することになります。全国各支部グループの発表は発表資料含めての発表の評価点が審査委員によって厳正につけられます。最後に先に提出した報告書の評価点とあわせて入賞チームが選ばれます。特に優れた成果を残したグループには、BIPROGY研究会で最も栄誉のある『エッカート賞』候補としても推薦されます。

2024年度(R6) 研究活動 キーワード一覧

No	キーワード	推薦する理由ならびに活動内容（案）
1	AI／生成AI	生成AIへの注目が高まっているが、社内業務に活用するためには、社内での生成AI環境整備、ファインチューニングやRAG手法の選定、社内データ整備、業務効果測定手法等を検討する必要がある。また、2023年11月にMicrosoft365 Copilotがリリースされ、既存のword、Excel等のデータ活用も期待される。社内業務効率化に資する生成AIとは何かを考察する。
2	デジタルツイン	コロナ禍を経て、人々のコミュニケーションの在り方やデジタル社会へのニーズが変化している。デジタルとリアルの行き来が今後拡大・活発化する情勢を踏まえ、多様性を享受が容易なサイバー空間への期待や活用を考察する。
3	DX	DXが業務効率化だけで終わっていないか。IT化しただけで満足していないか。DXの本来の目的は「レガシーな仕組みからの脱却と組織文化・風土の改革」だが、たどり着けていない。取り組み開始時の組織合意形成も含めたアプローチをどの様にすれば本来の目的にたどり着けるか考察する。
4	Web3.0 DAO（分散型自律組織）	従来の組織とは根本的に異なっており、Web3.0が本格化する時代において盛り上がる組織形態として注目されている。DAO（分散型自律組織）に関して、その特徴やメリット・デメリットを調べて、新たなコミュニティとして実践しながら検証する。
5	脱炭素社会	2023年2月に「GX実現に向けた基本方針」が閣議決定された。その中で今後10年を見据えたロードマップについて各分野別の事例が示されている。その事例を参考にしながら、GXをテーマとしてIT部門の戦略的な関与の在り方（関わり方や変革の方向性）を思考し、GX実現に向けたDX戦略活動について考察する。
6	SDGs／ESG	いまや各企業は、SDGsやESGについては無視できず、率先して取り組んでいくべき課題となっています。各企業がひとつひとつ課題を解決していき、積み重ねていくことで世界全体がよりよい方向に向かっていくと考えます。研究活動を通して、SDGs・ESGを意識しなおし、具体的な課題解決方法を探る。
7	地域・地方創生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化が進む中で、各地方の強みを引き出す形でのDXやローコストオペレーションが求められる。今後の地域活性化や効率的な地方事業運営が出来るように、地方行政や地域活動の一助としてIT活用を考えていく。 ・ 地域のつながりが薄れており、デジタル技術を利用して交流の活性化を促し、特に高齢者と子供への見守りへ繋げられないか。地域全体で情報やイベントを共有、オンラインでのワークショップ、講座、交流イベントを企画・開催し、住民が新しいつながりを築く機会を考察する。
8	ヘルスケア	高齢化社会における健康寿命延伸に向けたエンドユーザー向けセンシング情報管理アプリケーション開発に向けた取組み。デジタル、デバイス、クラウドを活用したヘルスケアの可能性を探る。
9	高齢化社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからさらに加速される高齢化社会に向けて、IT技術によって高齢者が安心、安全に生活できる社会を構築できるかを考える ・ サービスのDX化が推進されている中で、高齢者におけるDXは進捗しているのだろうか。DXにを妨げる要因があるのだとすれば、使う立場と使ってもらう立場での双方の視点から問題を深掘し、解決策を見いだせないか考察する。
10	働き方改革	『働き方改革』の取り組みが開始され5年目に入り、ハイブリッドワークは、出社と遠隔勤務を組み合わせた柔軟な働き方であり、新しいワークスタイルとして注目され、生産性や効率性、ワークライフバランスなどの向上に貢献するメリットがある一方、勤怠管理やコミュニケーション、セキュリティなどの課題もある。これらの課題と解決策について考察する。